

## 碧い海と地域のために

—創立50年を迎えて—

奥戸漁業協同組合女性部  
野崎和歌

### 1. 地域の概況

大間町は本州最北端に位置し、北海道の山並みを北に仰ぎ、雄大な津軽海峡が眼前に広がる人口6,298人(平成20年9月末日現在)、世帯数約2,465世帯、総面積52km<sup>2</sup>の漁業と観光の町である。

また、津軽暖流と親潮が交差する好漁場に恵まれ、採介漁業や釣り漁業が盛んで、特に「まぐろ一本釣り漁業」は多くのマスコミに取り上げられ、漁獲されたマグロは「大間マグロ」として全国にその名前が知れ渡っている。

私たちの住む奥戸地区は、大間町の南側に位置し、小奥戸地区、奥戸地区及び材木地区の3つの集落で形成されており、漁業と農業が主な産業となっている。

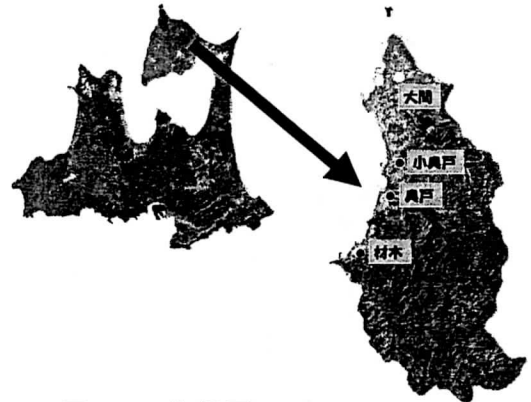


図-1 位置図

### 2. 漁業の概要

町には、大間漁協と奥戸漁協があり、平成19年には漁獲数量3,034トン、漁獲金額25億9,000万円の生産がある。

私たちが所属する奥戸漁業協同組合は、組合員362名で、平成19年の販売取り扱いは、漁獲量560t、漁獲金額2億5,651万円で、内訳は採藻漁業が46%、鮮魚類32%、ウニ等22%となっている。

主な漁業はコンブ、エゴノリ等の採藻漁業を主体に、一本釣り、延縄、たこ樽流し、いか釣り、うに籠等の漁船漁業を営んでいる。

漁業専業で生計を立てている人は約50人程度で、採藻漁業を主体に農業と冬期間の出稼ぎをする兼業漁家がほとんどとなっている。

### 3. 漁協女性部の組織と運営

昭和34年3月に、奥戸漁協婦人部が発足し、町内女性組織第1号として注目を浴びて以来、今年で50年目を迎えます。女性の地位向上という時代の流れに沿って組織の名称を平成11年度から奥戸漁協女性部に改め心新たに頑張っている。

現在の部員数は149名で、役員構成は図2のように部長、副部長兼会計2名、理



図-2 組織図

事7名、監事2名で、活動運営に当たっては、27班（各班3～10名）の班長が連絡員の役目を果たしながら役員を支えている。

近年部員数は減少しており、年齢構成は表-1のとおり50歳以上が大半を占める。

活動状況は表2のとおりで、漁協内の活動にとどまらず、環境保全及び地域活動等に積極的に参加し活動している。

表-1 年齢構成別部員数

年代	平成11年		平成20年	
	部員数	割合	部員数	割合
30	15	6%	0	0%
40	43	17%	15	10%
50	66	27%	40	27%
60	64	26%	68	46%
70	60	24%	26	17%
合計	248		149	

表-2 主な活動

項目	年度																					
	33	34	35	36	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
家計管理	10円貯金				●																	
	家計簿記帳の推進					●																
	貯蓄推進実践地区					●																
	共同購入の取組み																					
環境	漁港周辺清掃																					
	花壇づくり																					
	石鹼の推進																					
地域活動	婦人消防クラブ					●																
	一人暮らし老人の弁当作り						●															
	マリンフェスティバル																					
	大間町特産品即売会																					
	特産物販売活動							●														
研修	婦人部研修旅行																					
	下北 地域漁協婦人部連絡会																					
	AMLS協議会:上記名称変更						●															
	下北・函館漁協婦人部交流会								●													
大間町女性団体連絡協議会								●														

#### 4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

私たち女性部が取り組んできた活動は、まず、漁協の信用部門の支えとなる貯蓄を実施すると共に、家計簿記帳を進め、無理のない楽しい節約に取り組んでいる。

また、環境問題及び周辺の美化活動も、女性の観点から改善にむけた取組みをするべきではと考え、奥戸地区だけではなく考えを同じくする女性部と協力して、学習会等による知識の習得及び様々な活動に参加してきた。

更に、地域に直結した活動として、安全で住みよい地域づくりのための婦人消防クラブの活動や、漁村の活性化をめざし特産物を活用した加工品を作成し、町内外イベントなどで出店協力し販売している。

#### 5. 研究・実践活動状況及び成果

##### (1) 貯蓄活動と家計管理の向上

昭和36年から漁協信用部の支えとなる手軽な貯蓄活動として、1人1日10円貯金を開始した。

最初は班毎に「貯金箱」を作成し、班長が毎戸訪問して会員が毎日自分の名前の

ところに小銭を入れる方法で開始した活動が、家族や地域に認められ、女性部員の個人名義の口座に積立できることが好評となり、48年たった今も鋭意継続している。

最近では毎日の訪問による回収ではなく、班毎に週1回又は月1回程度の回収とし、一度の貯蓄額も個人の能力に任せている。

この取り組みは、「平成11年度青森県漁協系統貯蓄推進運動（フレッシュアップアクション運動）」に呼応し、漁協貯金残高の目標達成にも貢献している。

家計を管理する主婦が無駄をなくし、生活設計の目標に向かって貯蓄することは、将来への備えとして、また家族での行楽、自己研鑽費用として、また、安心とゆとりある生活を実現する上でも意義がある。

昨年は、燃油高騰に全国の漁業者が経営困難な状況を漁業者一丸となって苦境を訴えた。

奥戸漁協も同様に厳しい状況であったが、私たちが長年行ってきた僅かな貯えでも、この苦境を和らげる一助とし漁業経営を支えた。

## (2) 地域に広がる海岸美化運動と碧い海を守る意識の向上

漁港内の環境美化運動の活動の一環として、漁協周辺の花壇づくりと清掃活動を実施している。

花壇づくりでは、サルビアやマリーゴールドの苗の定植や管理作業を部員が分担して行い、周辺の環境美化に貢献している。

また年に1回の漁港内の一斉掃除は、女性部員と組合だけで始めた取り組みが、現在では漁港を利用する多くの人々や地元の小・中学生も参加し、集落一丸となって行うほどに発展している。

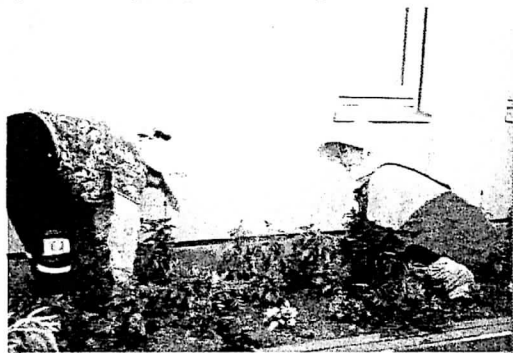


写真-2 組合周辺の花壇づくり

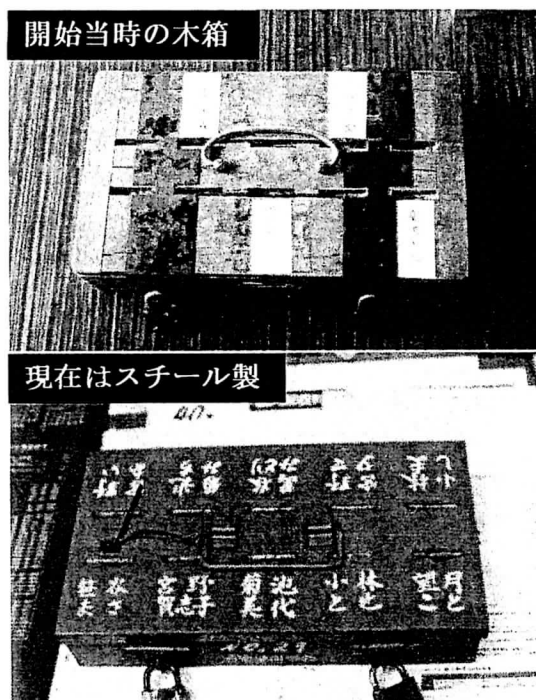


写真-1 10円貯蓄の貯金箱



写真-3 海浜清掃

さらに、漁業者の命とも言うべき海を守るための活動として、下北地域の10漁協の女性部で組織する「AMLS協議会」の一員として様々な研修・実践活動に参加している。

この協議会の「碧い海、守るもころすも我が心」を合言葉とし、下北地域の植樹活動への積極的参加はもとより、環境にやさしい石けんやアクリルタワシの使用を推進し、廃油を使った石けんづくりの実習や、色々なメーカーの石けんの商品テストや消費者団体との水質保全交流会も開催してきた。

これらの実験や学習を交えた研修会で生活排水対策を学んだことをきっかけとして、部員の環境保全に対する意識が一段と向上した。

### (3) 地域を守る活動

冬期間には、出稼ぎで夫が不在の家庭が多いことから、家族や地域の安全は女性が守ろうと、平成4年に婦人消防クラブを結成した。

活動内容は町消防署の指導を受け、緊急時に対応できるように消化訓練の実施や防火座談会、救急蘇生法の学習会、春や秋の火災予防運動期間中は夜のパトロールを実施し、安心して暮らせる活動として地域住民に喜ばれています。この活動が実を結び、平成9年には可搬式ポンプが設置され、当初40名だったクラブ員の増加もあり、より充実した活動ができるようになった。

大間町では23の女性団体が大間町女性団体連絡協議会を組織し、チャリティショーや交通安全運動を実施している。

この活動で得られた収益は、子供やお年寄りに有益に利用してもらおうと、町内の学校や施設に年間40～50万円程度寄付してしている。

これに加えて、単独女性部としても、町内外で実施される各種イベントに参加して、特産物の販売活動や流し踊りの披露、海難遺児募金活動等を行い、地域活動を盛り上げている。

特産品の試作を重ね開発した「荒目昆布入りうどん」と「昆布入りべこもち」を中心に販売した結果、「荒目昆布入りうどん」は消費者から特に好評で、大間町海峡保養センターの食堂でも販売するようになった。



写真-4 平成4年の消防団結成式



写真-5 地域パトロール

## 6. 波及効果

48年前から漁協信用部への支援協力の考えの下に始めた10円貯金は、地域ぐるみの貯蓄運動に発展し現在も継続している。

近年では、積み立てられたお金が自分自身の資質向上のため、有意義に使われるようになったことが、女性だけの消防活動や地域の大間町女性団体協議会等でのボランティア活動等も積極的に実施できる要因となった。

この行動が他集落や町全体から注目され高い評価を得ている。

また、地区のみだけでなく、下北地域の10の女性部からなる「AMLS協議会」にも参画し、研修や情報交換による研鑽を積み重ね、下北地域一丸となって海を守る運動を進めている。

## 7. 今後の課題や計画と問題点

現在、実を結んでいる活動も部員の積極的な参加のたまものですが、近年新規加入する部員がなく、女性部の高齢化が顕著となってきている。

漁協や町では、コンブやガゴメの磯資源管理や新たな資源としてのフノリの水揚げ増を図るための増殖場の造成に力を入れており、女性部としても知名度の高い大間の名前を最大限に生かすよう、地元産品の加工販売にも更に積極的に取り組むことにより、若い世代が参加しやすい環境の整備に努め、50年間続いた活動を継続して行きたいと考えている。